

会議名称	令和元年度第2回平塚市スポーツ推進審議会
日時	令和元年（2019年）11月25日（月） 15時00分から16時40分まで
会場	平塚市役所本館 519会議室
委員数	14名
出席者 委員	12名 陶山正明、萩裕美子、田中國義、高橋佳久、首藤幸子、鈴木登喜雄、高橋篤、落合浩一、守泉光江、畔柳豪、鈴木喜明、平松廣幸
出席者 事務局	5名 高橋社会教育部長、市川スポーツ課長、五島課長代理、奥脇担当長、高橋主査

1 あいさつ

陶山会長よりあいさつ

事務局より、委員の定数14名に対し、本日の出席者は12名であり、委員の出席が過半数を超えており、平塚市スポーツ推進審議会規則第4条の規定に基づき、本会議が成立している報告がなされた。

2 議題

(1) 平塚市スポーツ推進計画事業の取組みについて 資料1

【事務局】

資料1のスポーツ推進計画事業について、進捗状況が「若干遅れ」「遅れ」になっているものは、「平塚市スポーツボランティア制度運営事業」「スポーツボランティア活動事業」「スポーツ普及員の検討」「スポーツ普及員の創設」「平塚市体育協会の法人化に向けた支援」「平塚市スポーツ指導者制度運営事業」「スポーツ指導者の派遣先の募集」「横浜DeNAベイスターズ、横浜ビー・コルセアーズを活用したイベントの開催」「未利用地所有者との調整」「県スポーツ施設の借用」「民間スポーツ施設の借用」となっている。遅れているものについて、委員の皆様の意見を伺いたい。

【会長】

事務局としての見解はどうか。

【事務局】

スポーツボランティアについては、当初は登録制度を設けて広く募集することを考えていたが、審議会の中でも意見があり、何のボランティアをいつするのかなど、具体的

なものがないと登録も難しいだろうということで、イベントごとにボランティアを集めるように見直しをしている。既に駅伝大会では高校生ボランティアを募っている。スポーツ普及員はあまり事例がなく、推進委員や健康普及員と似たような仕事ではという意見もあり、進め方が止まっている状況である。

体協の法人化についても、検討はしているが難しい状況があり停滞している。

スポーツ指導者制度は、神奈川県や公民館の登録制度等を併用して活用したいと考えている。

横浜 DeNA ベイスターズ、横浜ビー・コルセアーズを活用したイベントの開催については、総合公園課の事業をスポーツ課も連携してやっていこうと記載しているが、スポーツ課の部分については来年度の事業から削除することになっている。

未利用地所有者との調整、県スポーツ施設の借用、民間スポーツ施設の借用も計画の見直しに合わせて情報提供をすることになっている。

【会長】

委員の皆様のご意見はいかがか。

【委員】

スポーツ推進委員の推薦母体は地区体振からで、36-1、36-2はやや遅れ気味となっていてその下の(6)スポーツ推進委員の資質向上は概ね順調の評価になっているが、標記併用する場合にこの評価の方法はいかがか。

【会長】

単純にスポーツ普及員として進め方ができていないということか。募集がないが、今後スポーツ普及を必要とするのか。募集はしているか。

【事務局】

積極的な声掛けはしていない。

【委員】

私たちはニュースポーツをやっている。一つの競技に専属でスポーツ推進委員が徹底してやっているわけではないので、一つの競技のボランティアや普及員として言えないし、出ていけない。個人的にはやっている人はいるかもしれないが、推進委員全体として何をどうするという話がない。

【会長】

ニュースポーツを含めて各地域で活動していただく部分を捉えなくてはならない。

【委員】

スポーツ推進委員は、市内全体でのニュースポーツの普及をしている。ここで掲げている部分は地区委員の体育振興会や自治会の連合会で色々なスポーツ大会、地区レク含めてスポーツの推進をしている。制度化する形で棲み分けできているので、推進委員の制度、体系を作ってしまうとあてはまると思う。制度がなかなかできないから、任命しようにもできないし、任命された方が意識して努力する。その効果を狙っての計画だと思う。

【会長】

その意味では体育振興会の方々が普段やってくれていることも地域的なことである。

【委員】

例えばソフトボールの大会は地域でやっている。それを進めてくれる方が推進委員や普及員だと思う。制度を当てはめていけばよい。

【会長】

重複しても制度化してしまえば同じ人でもよいということか。

【委員】

スポーツ普及員が特に多くなる。推進委員は地区に3名いる。これが目指すものは各地区で10、15人と大勢の方になる。実際、大会運営をしている方々も普及員であり、形はできており、それを制度化するかどうかの話である。

【会長】

事務局の意見はいかがか。

【事務局】

例えばピンバッジやカードなど、普及員だと示すものは何がよいのか考えた。意識させるために形あるものをお渡しするとか。

【委員】

最初は小さい賞状や任命の委嘱状でもよいのかもしれないが、ワッペンやバッジで周りの人が気にするぐらいになれば普及員に張り合いが出てくる気がする。

【会長】

体振の皆さんや指導員の皆さんにもそれに関わっている現状があれば、そのあたり加味していただきたい。

【委員】

まさに今やっていることが普及員である。

【会長】

他にご意見いかがか。

【委員】

スポーツ推進委員とスポーツ普及委員はどこが違うのか。

【会長】

皆さんから提案いただいて、本来のスポーツ運動に対して関わっていただく方をきちんと任命して底辺を広げていこうという制度を作ろうということだった。

【委員】

単位地域の普及をする人が普及員で、市内全体で統一的な行動をして進めていくのがスポーツ推進委員という差である。

【委員】

体協にも各競技別にあり、普及員に関係している。

【委員】

体協の場合には登録団体（加盟団体やチーム）がスタートである。登録していない人も地域でスポーツをしている。

【委員】

スポーツに関わる方々の見える化を目指した。色々な方々にスポーツに関わっていただくということで体振や体育協会でお手伝いしてくださる方も入る。インフルエンサーといって色々な人に広げていく意味で見える化し、バッジなどをして自分は普及員でスポーツに関わっているということをできるだけ多くの方に知らせることにより周りの人から気にかけてもらえ、何か目印をつけるのがスポーツ普及をするスポーツ普及員かなと出てきた話であり、体育指導員の方達も入るし、市民の皆さんがスポーツ普及員になればみんながスポーツに関わることになるので、スポーツ推進計画に入れた。難しい

ことではなく、今やっていることの見える化をするだけでこの部分は十分達成できる。お金はかかるかもしれないが、表彰や委任状を受けるのでは全然見えない。一般の人達がこの方はスポーツ普及員だと感じてもらえる何かがあるとスポーツの振興に役立つのではないかという話だった。本人も普及員という自覚を持てる。

【委員】

体育部長をはじめ、体育部会員がその形になる。

【会長】

委員が重複することは気になるが、重複してもしなくてもその辺りの普及を線引きしていけばよい。若干遅れと概ね成果ありとなっているのが気になるが、明確にしていただき、基本的に地域の皆さんに広く知らしめる必要がある。前進していく形でいかがか。続いて、体協についてはなかなか難しい点があると伺っている。

【委員】

難しいのは、既に平塚市まちづくり財団の法人化でスポーツの分野、文化の分野、まちづくりの分野の三分野をお持ちで、同じ形態のところを法人化となると、別途の形の一般社団法人という形にしていくのかなと考えている。もう少し時間をかけて、今後補助金も頂戴する団体でもあるし、協賛会員を増やしていくなど自主を見据えながら進めていこうとすると法人化していかなければならない状況なのではないか。現実問題としてなかなかの折り合いと法人化の採算が必要になってくる事業の充実も必要になってくるが、整ってないのでもう少し時間をいただきたい。

【会長】

他で法人化した体育協会はあるのか。

【委員】

小田原市、川崎市、相模原市、逗子市、厚木市がある。また、秦野市は財団と体協が一緒になった。

【会長】

継続審議ということでよいか。次はスポーツ指導者制度運営事業とスポーツ指導者の派遣の募集について、事務局から説明はあるか。

【事務局】

登録自体は体育協会と協力していただければと思う。中学校の部活動の外部講師の派遣

の相談が年に数回ある程度で、他にダンスの先生の紹介依頼の問合せが一般の方であった。問合せも少なく登録制度はあまり機能していない。県にも登録制度があるがあまり機能していない。

【会長】

市は派遣ができる資格者の資格指導者の募集はかけているのか。

【事務局】

制度はあるが積極的に動いていない。

【会長】

体育協会で種目別スポーツに特化した方々もいる。

【委員】

日本スポーツ協会の認定を受けている指導員が平塚に180人くらいいる。また、平塚市体育協会も独自に指導者制度を持っていて100人弱というところである。それを一本化していくのもひとつの考え方である。体協が指導者制度を離さないということではない。それから日本スポーツ協会の認定の指導者も結構いるので、平塚支部の会議ができていると思う。話し合いながら一本化となれば活動の場が広がっていく気がする。

【会長】

これも言葉を変えれば指導者の登録をしてください、指導者を募集しているとか認定指導者みたいな人を名乗り上げてくださいなど派遣する人数をどうするのか制度そのものがあまり確立させていないということか。

【事務局】

認知度も低く、そうである。

【会長】

これも指導員と同じように、もっと広める課題があるということか。

【事務局】

そうである。

【会長】

計画していただき、学校でも部活指導者を募集してくれるから地域に派遣しているし、

そのような制度があれば尚更だと思うが、いかがか。

【委員】

教員の働き方改革で今政府が部活については民活を図っていこうと予算化も検討しているが、適切な人材を送り出せるような、あるいは選択できるような場を早急に作る必要がある。学校が本人と会って面接して人柄、適正を判断されると思う。選択肢が多いほどの確な人材が確保できるので、もう少し突っ込んでいく必要があるのかなという気がする。

【委員】

国の動きとして、マッチングの問題を重要視していて、今それを作る方向で動いている。地方に下りてきたときに、データが一本化されているかというのは問われてくるので、ここはとても大事なポイントで、この地域でどんな人達、どんな指導者がいてどんなことができるのかどこかが一括してデータとして持つべきである。それはトップアスリートを育てるだけではなくて、レクリエーションやニュースポーツなどを含めてスポーツの概念がとても広がってきており、総じてマッチングができるようにというのは国の方向としてあるので、こちらの方でも準備していく必要がある。

【会長】

次にトップアスリートの関係で、事務局から補足はあるか。

【事務局】

これは総合公園課の事業を載せているので、次回は載せない。

【委員】

これは平塚市全体のスポーツ推進計画で、総合公園はすでに巡回指導や活用の中で、給食など色々な分野ですでに行政が関わっているので、これはこれで載せてよいのではないか。

【事務局】

総合公園課は残すので、スポーツ課として個別具体的に DeNA さんをお願いすることは特段ないので、なくすわけではなくて実施主体を変える。

【委員】

総合公園課と表題や項目を詰めてほしい。

【会長】

次に未利用地所有者との調整、県スポーツ施設の借用、民間スポーツ施設の借用についてだが、ここは消すのか。

【事務局】

情報提供という扱いで標記が変わる。施設の有効活用ということで項目立てをしており、問合せがあれば情報提供できる準備を整える。

(2) 令和2年度スポーツ課予算について 資料2

【事務局】

地方公共団体がスポーツ団体に対して補助金を交付しようとする場合は、教育委員会がスポーツ推進審議会等、その他の合議制の機関の意見を聴かなければならない。それに基づき、審議会へ意見を伺うものである。補助金については、団体、大会、事業に対して交付している。団体補助は平塚市体育協会、平塚市体育振興連絡協議会、平塚レクリエーション連盟が対象である。大会補助は、日本学生陸上個人選手権大会、秩父宮杯であり、事業補助としては、サッカー文化を振興に関するということでベルマーレ関係である。今年度の予算編成上の留意点ということで、今までは総額でその枠に収まっていればよいということだったが、今回は一件審査方式ということで、財政課が1件ずつ厳しくみていくことになり、現在、来年度の予算案は編成中ということである。スポーツ課としては、補助金については昨年と同じ金額で要求をしている。

【会長】

ご意見はいかがか。

【委員】

補助金はだんだん自助努力でカバーしていかなくてはならない時代という認識は持っているが、現実問題とすれば当てにしている、これによって加盟した団体とも運営に活かしている。質問なのだが、国はオリンピックの種目等にはだいぶ力を入れており、スポーツ基本法は国民生活の向上も大きな柱のひとつなのだが、それに対する補助金というのは平塚市にきているのか。

【事務局】

国の補助の対象となる事業がない。

【委員】

申請主義なので、しないといけない。

【委員】

国民生活の向上は大きな柱なので、お金が下りていると思っていた。

【事務局】

申請主義なので、申請しないとお金は下りない。

【委員】

スポーツ課に頑張ってもらえばお金が下りてくるのではないか。

【事務局】

事業ではなく、国ではメニューというが、市の事業で補助金をもらえるものがない。

新たにイベント事業を興して、それが補助金にマッチするから申請するという流れになる。既存の事業はメニューに当てはまらない。

【委員】

目新しい事業を考えていこう。

【委員】

国の予算というのは、事業として提案されたもの以外はつかないので、生涯スポーツや健康づくりや健康とスポーツという観点では全体に中ではほんのわずかで少ない。オリンピックの関係があるので、そちらに特化している。生涯スポーツや国民の健康づくりというところで若干のお金はあるが、地域の健康づくりとスポーツを一緒にやってくれるようなモデル事業に対して、補助金を出すというのを今年度から初めてやっている。これに神奈川県が手を挙げて、補助金を受けているが、全く種がなければ出来ないが、全く同じもの当てはまるわけではないので、うまくカスタマイズし、少し変えて提案して、スポーツ庁の方で審査があつて、認められれば補助金が下りてくる。ただそれも100パーセントの補助金ではなく、おそらく半分の負担があり、事業を取ったはよいが、半分の予算どうするのかということになり、すごく使いにくいといえれば使いにくい。なかなか国はばらまけないというのはあるから実際は難しい。ただ、それをひとつの起爆剤やきっかけにしながら、補助金は2、3年後になくなっていくから、その後どうするかまで考えて、地域で次なる事業を考えていくことになろうかと思う。向こうから下りてくるということはほとんどない。

【委員】

スポーツ予算は増えているが、国の予算は削られるところが多い。各既存の事業とコラボして新しい形態、市民参加できるものに可能性があるということである。

【委員】

手を挙げて申請書を出しても必ず通るとは限らないが、その取り組みが非常にユニークで、色々なところにも応用が利く内容だと補助金がつきやすい。平塚市の体振をはじめスポーツ施策というのは、非常に素晴らしい施策である。これを色々なところに披露する必要はあるから、うまくやれば、今のしくみを利用しながら地域の末端のスポーツ活動をサポートしているという書き方をすると通る可能性が充分あると思う。チャンスが来た時には、ぜひ申請を出したらよいと思う。

【委員】

似たようなものだと、地域のスポーツクラブで最初は補助金が出ていたが三年くらいで補助金が終わると活動も終わってしまうという危険性がある。

【委員】

全くゼロからのスタートだと続かない可能性があるが、長年うまくやってきた辺りをいかにより形で、時代に合わせて活性化していくと可能性は十分ある。やはり人がいないところでは何も生まれない。平塚市は可能性を持っているので、うまくやれる方法はあるのではないかと思う。今求められているのは、スポーツのみというより健康づくりやまちづくりなど複合的なものである。総合公園課のメニューなどもコラボレーションの中でうまくやっていくことがこれから求められていく。今はひとつの課だけで何かするのは難しい状況であり、色々な課が連携して、まちぐるみでこんなことをしているのを出せると今後、お金もつきやすくなる。

(3) 今後の市民総合体育大会について 資料3

【事務局】

第68回市民総合体育大会の優勝は花水地区であった。資料はバウンドテニス、トリムバレーボール大会の結果、市総体の現状、市総体のあり方、同あり方についての提言書の対応結果、元職員による個人情報の持ち出しについて、市長表敬訪問についてとなっている。

【会長】

市総体の問題点はなにか。

【事務局】

今回68回を迎え、あと2回で70回という節目を迎えるに当たって、第60回の時にあり方の提言をいただいている。そこを踏まえながら70回大会に向けて時代も変わっているので、市民総合体育大会の内容等も変えていった方がよいのではないかとかいうことでご意見を伺いたい。

【会長】

70回大会に向けて、今問題となっている具体的なものを改正し、時代に合った体育大会にしていくべきというのが提案理由だと思う。

そういう意味で、大会の開催時期の問題や、小学校、中学校の運動会なども色々な問題が出ている中で、暑い中でやらなければならないのか、参加人口の少ないところだと不公平差があるのではなど、そういう捉え方でよいのか。

【事務局】

そうである。

【会長】

具体的にどうするかと今日だけでは結論は出ないと思うが、これから先も議論をしていくということか。

【事務局】

そうである。

【会長】

今後の課題について、概略でよいので委員の皆様のそれぞれの立場からの意見を伺いたい。

【委員】

70回大会の時から変えようとするなら来年度の秋には予算措置等も検討していかなければならないので、来年の夏ごろまでにスケジュール的にはまとめたい。

【事務局】

70回大会に向けてということなので、例えば69回で変えられる部分は変えるし、70回からでは無理だけど71回からなら大丈夫ということもある。70回が目安ということで意見をまとめていきたい。

【会長】

根底的には議論をするという前提だが、時間をかけて議論をしてきたスポーツ推進計画と同じように、第70回大会に向けて市総体のあり方について再検討するという一つの大きな題目で今後、時間を掛けていくという意味でよいか。

【事務局】

来年度がスポーツ推進審議会委員の改選期で人が変わったりするので、まとめ上げていくというよりは意見を集約させていただきたいという考えである。

来年の審議会の第1回が6月前後にあつて、第2回の時期をいつにするかだが、例えば10月だと財政課に予算を投げ掛けている段階になってしまうので、そこで意見をいただいても反映できないが、10月に開催した場合は、そこでいただいた意見は71回大会に向けて反映することもできるので、あと3回くらいその場の中でご意見を伺えればと考える。

今回、資料提供はしていないが、平成24年度には政令市を除いた各市に市総体をどのようにやっているとか、大々的に平塚市でアンケートを取った。例えば伊勢原市は、財政的な関係で、市総体は協会がやっているようなので市としてはやっていない。そういう市も出てきており、前回のアンケートからもう大分経っていて県内の各市の状況も恐らく変わっていると思うので、そういった資料もまとめ上がった時には提供できると思う。

【会長】

事務局としてのコンセプトや提案理由や今後に向けての課題はいかがか。

【事務局】

提言書がベースになると考える。資料『「市民総合体育大会のあり方についての提言書」対応結果について』のうち実施済み、一部実施済み、未実施とあるがそのあたりで変えられる部分もあると思うが、スポーツ課として出来ない部分もあるので、ご意見があれば伺いたい。

【会長】

今日のところは皆様からまとまったご意見は出ないかもしれないが、今日提言されている60回大会以降の流れについての対応結果を資料として皆さん一人ずつから個々にご意見をいただきたい。ご意見がひとつの柱になる部分になるかも知れないし、今後のタイムスケジュールによって議論の要になる。これは基本的には今申し上げたように、60回大会の提言書から14ページの問題提起とかプラスα色々ご意見があると思う。

【委員】

市総体の開催要項を資料として委員さんに配っていただけたら参考になる。今話があったように、他市の状況、例えば横浜市は、競技別に市民大会を開いている。時期も主幹団体に任せているように受け取れる。アンケートを取ったという実績があるなら、取りまとめたものを事前に郵送していただき、たたき台とするのはどうか。

【委員】

現在、スポーツ課で体振を対象にしたアンケート調査を実施している。その結果を皆様にご検討いただきたい。

【委員】

ニュースポーツはいずれ市総体の得点種目の対象になるのか。

【事務局】

参加地区数が多いので、得点種目にしても差し支えないと個人的には思う。

【委員】

あとは表彰の時期が難しいということが問題なのか。

【事務局】

そうである。

【委員】

そこのところはよろしくお願ひしたい。私たちも大会をやっているが、市総体の一環として、各地区に点数が入っていくとなれば、選手方の励みになり、力入れようも違うと思うので、そうなればよい。

【委員】

時期の問題がある。私が視察していて一番気になったのは松風のテニスがものすごく暑くて、休憩場所や日陰がなく試合が終わるまで逃げ場がないような暑さだった。他の競技では、サッカーなども長いから大変なのだろうが、長い時間さらされるところは時期の変更を検討すべきだと思う。それによって表彰の時期を変えていく。それを含めて、さきほどのドリームバレーや駅伝大会も地区の総合得点に加えてもよいのではと思う。年間を通したスポーツの地区対抗っていうのを合わせて考えていくと、暑いときは外すという競技も可能になってくると思う。ご検討をいただきたい。

【委員】

いくつかご意見が出ており、夏休み時期の実施ということで熱中症系も色々なところで計測も始まり、気温を考えるとスポーツは実施できないというような日になる場合もあると思う。年間を通して色々な種目の盛り上がりには欠けるというようにここに書いてあるが、色々なところで無理のない計画の中でやっていけるのがよいと思う。開会式、閉会式の実施問題というのが本当に難しいが、多くの人が一か所に参加できるというのがますます難しい状況にあるので、ウェブでやるというのがあるかも知れないし、ケーブルテレビでもそういうのもあるかもしれないが、一年間を通した時期というのは賛成である。

【委員】

団体として直接的な関わりには限りがあり、広報活動や市総体との繋がり、深まりをどのように中高生に広げていくか、年齢層が偏った参加形態になりがちな部分を全体に広げていくための仕組みも課題である。中学生、高校生に対してのアプローチができるのか。そういったところも考えてみたい。

【委員】

私は市総体に行ったことないので意見は差し控えさせていただきたい。昔の話で申し訳ないが、市総体ではないが、田舎で運動会をやるのを一年間プールして、例えば水泳大会があるとすれば、何地区は何点とやって、次はソフトボール大会をというように、一日か何日かで総体を全部一気にやってしまうのではなくて、長く一種目ずつ楽しみながら、あと一点や二点なら自分の地区がひっくり返して優勝できるかもしれないというようなやり方を思い出した。小さい時にやっていた地区の運動会みたいなやり方である。運動会で総合の点数を出して、優勝はここという形ではなくて一年を通してやっていた。何か励みになるっていうのか、挽回できるのではないかっていう楽しみっていうのがあった。余計な話かも知れないが、日程を固めて一日か二日位で結論を出して優勝を決めずに一年をかけて長い道でやるのも一つの方法かなと思う。この大きな市でやれるかどうかという問題はあるが、色々な種目、パート、協会が集まりがあるようなので、そういう所でそういう形をやってみたら面白いと思う。

【会長】

今のご意見は以前からないわけではない。課題になっている、表の14ページ32番に記載されている部分の対応検討事項が書いてあるが、同じ意味で、21番のニュースポーツの3種目は、それぞれの事業をずらしてやっていただいて、これは公開種目になっているので得点種目ではないが、これは季節的な大会でひとつの検討課題と毎回書いている。ただ、申し上げたように32番の問題点をどうクリアするかという課題もあり、

今後の審議の課題のひとつである。

【委員】

今回第70回大会に向けての市総体のあり方についての話だが、先程お話があったように次の会議に向けての色々なアンケートの資料もできれば事前にいただければと思う。皆さんで検討して、その場でまたお話ができるのではないかと思う。市総体全体としては、やはり地域の対抗戦的な意味合いである意味必要な部分だが、最近特に地域同士の仲間意識やコミュニティーも非常に薄くなってきているので、こういったスポーツを通して皆さんが参加して、応援する人もたくさん来るような形が母体となってくれば地域のコミュニティーや繋がりがもっとうまくいく。そういった大会にしていく方法を考えていくとよいと思う。

【会長】

その意味で私も地域的な意見で申し上げると、市総体をやっているの知らない人が結構いることも課題のひとつで、もっとアピールする必要がある。そうすればもっと選手層が広がるのかもしれない。

【委員】

今の形で、競技スポーツをやられている方に関しては非常に励みになっていると思う。私も出たことが一度あるが、盛り上がって楽しい。生涯スポーツにシフトするなかで、公平性など色々な課題がある。参加した人数によってプラスαするとか、サッカーは11人だが20人集めて2チーム作ったらその地区には20点あげるとか、バレーも20人集まってくれたらボーナスポイントなどもよい。地区や競技によって人を集める大変さを聞いたことがあるので、公平性などの課題はたくさんあると思うが、幅広く捉えて周知も工夫できたらと思う。

【委員】

地区によって、全種目出られないところがあるが、学校のクラスマッチの考え方で出なくても最低点をあげると励みにもなると思う。地域の夏は本当に大変で、高齢の方が出なきゃいけない。中学校としては市総体とか大会があるので、そこに一緒になると会場が困るので、その合間を縫っていかないと非常に大変である。特に建設的な意見ではないが。

【会長】

中高生の話が出たが、中高生がその時期に大会があるから急遽出られなくなったら地域は困ってしまう。そういった意味も含めると基本的に、スポーツ推進計画における競

技スポーツなのか、いわゆる生涯スポーツなのかという所に基準を組むかもしれないが、最終的には体育協会のスポーツ団体の皆さんのご意見もいただけたらよい。お時間をいただいたが、今日のところはざっくりばらんに概略的な部分で提案があった部分でという捉え方で、今後は日程、内容、タイムスケジュール、今日のような資料も必要だという部分も考えていただければよい。

【委員】

第三者として、非常に素晴らしい市総体が今この世の中であることがすごいので、是非これは継承して行っていただきたい。一回なくなったら二度とできなくなる。狙いとか、評価軸が果たして、勝ったらよいとか、そういう評価軸だけではなくて、参加人数だとか、それまでに頑張ったこととか、うまく評価できるような仕組みを考えるとやはり年間通して評価するのが面白いのかなと思う。午前中のスポーツ庁の会議で大きな問題になったのが、イベントの時は盛り上がるけど、あとはみんなやらなくなることだが、平塚市の市総体を見ていると日頃やっている人が頑張ってそこのイベントに参加してくるので、全く逆である。そういった意味ではそのイベントが随時あることで日常化していく。日常化の活動がやはり今求められている。運動の実施率が65%というのは日頃、定期的に運動する人を増やしたいのでイベントで盛り上がるだけではなくて、それが日常化していくのが非常に重要なので、月に一回くらいイベントがあるというやり方もよいと思う。もう一つお願いは是非、開会式、閉会式はやって欲しい。やはりスポーツ界でのメリハリで、オリンピックの中でも開会式、閉会式は非常に重要なポイントなので、これは何か全ての種目は来なくてもよいので、きちんとやってこども達に、開会式、閉会式はこういうものだとして伝えていただけるとよいと思う。

【会長】

開会式、閉会式も一部の人だけの参加では寂しい。

【委員】

私は大田区のスポーツ協会の理事をやっているが、大田区はすごく派手な開会式をやっている。色々なサークルの人達を招いてこども達と踊り、それを見る親や関係者が来るので結構盛り上がっている。やり方次第だと思う。

【会長】

前にもご意見をいただいたが、競技場で色々な人を集めた開会式という話が出たこともあった。こども達が競技スポーツをやっている人は別として、普段大会に出て貰えるような人は、発表の場が必要ということも考えていかなければならない。

【事務局】

14ページの表の見方で、左側に振ったNo.11というのは、12ページの第1章の1という見方である。第2章の1ならNo.21となっている。第2章の2番は、競技によって年齢制限を設け各世代の参加を図る、というのが14ページの中で抜けてしまっている。年齢制限を設けるというのは、例えば茅ヶ崎市さんでは、サッカーの種目を40歳以上のチームと40歳以下のチームや年齢制限を設けて大会をやっているということで事例として上がっている。平塚では卓球競技のミックスが、合計年齢が120歳以上と80歳以上の年齢区分を設ける仕組みでやっている。また、ボウリングはハンディキャップを付けている。例えば、男子の70歳以上は15ピンとか、女子の70歳以上は30ピンとか、高齢の方だとそれだけでハンデがある。私からすればそういったハンデはなくてもよいと思う。年齢制限を設けると、中学生の市総体だと、公開種目しか認めていないが、中学生の参加を認めたり年齢制限を卓球のように設けたりするのも考え方としてはよいかもしれない。

【会長】

次回の3月の審議会で継続審議としたい。

3 その他

スポーツ課から資料2点について

【事務局】

一点目は、既に報道発表があったが、スポーツ課に在籍していた元職員が、スポーツ課のイベント、団体情報を持ち出したということで、ホームページでは4ページに渡って11月19日に公開した。経過ということで簡単にご説明する。4月の選挙前に、市民から選挙に出ている元職員から選挙葉書が送られてきたので調べてほしいと電話があった。その後調査し、8月8日に謝罪会見を実施した。その後、広報ひらつか9月第1金曜日号で市長のお詫び文を掲載した。9月5日にイベント情報の250名に謝罪文発送し、9月30日に登録団体等の約2万通の方々に謝罪文を送付した。10月1日に市長、副市長、教育長の給与減額条令が可決された。11月5日に警察と協議した中で、告発状の受理をしていただいた。再発防止策は、人的な強化と技術的な強化、パソコンの管理やUSBの管理の徹底、研修を含めて技術的な部分に相当お金を掛ける形になる。人的対策については、研修等を含めてチェック体制を強化していく流れになっている。色々ご心配とご迷惑をお掛けして申し訳ありません。もう一点は、10月の台風19号の影響でスポーツ課が管理している大神のグラウンドが冠水してしまった関係で、現在は利用中止となっている。整備する会社も決まって、その作業が始まっているところである。2月末までには整備を完了して3月の頭には全てのグラウンドが使える様な状況にしたいと考えている。川上の方が被害状況は軽いので、川上の方から随時整備をし

ていき、使用できる状況になれば随時開放していく。開放状況もホームページ等でお知らせしていく。

【会長】

スポーツクラブ連合さんの状況はどうか。

【委員】

大神で実施していた少年関係のものは全て各小学校に会場を振り分けつつ、港もお世話になっているが、学校は車台数に制限があり安全配慮をしつつ大会を運営するという事で1月の終わりの大会について今年は打ち切りを決めた。

【会長】

ベルマーレさんの進捗状況はどうか。

【委員】

まだ練習が出来ない状況で今年いっぱいには使えない。新シーズンに向けて2面ある天然芝のうち1面は国の補助金を受けて年明けには使えるようにしたい。

【会長】

こういう時はボランティアが参加するなど新聞に出ていたが、今回はどうか。

【委員】

今回はあまりにも被害が酷過ぎて、とても人の手でできるレベルではない。重機を使ったりしている。二年前の同様の被害で一番酷かったところが今回だと一番軽かった。

資料 平塚市長への表敬訪問について

【事務局】

優秀選手の活躍をたたえ、本市にゆかりのある選手を広く紹介していくことで、市民の方に知ってもらう機会にする狙いから市長の表敬訪問を行っている。総合格闘技のフライ級タイトルマッチに勝利し、暫定王者に輝いた益水翔兵選手、国際親善第11回全日本空手道選手権大会組手の部で優勝した大鹿倫毅選手、2019ジャパンパラ水泳競技大会50mバタフライで日本新記録を樹立した茨隆太郎選手の3組の方が市長表敬訪問を行った。今後も表敬訪問を行う予定が何件か入っている状況である。

【委員】

茨選手は私の教え子で、私のところで大学院も卒業している。彼は2021年にある

デフリンピックを目指して頑張っている。アスリートとして仕事をしながら東海大学を練習拠点にしている。彼は唇で読んでくれるので、コミュニケーションが取れる。色々な学校に招かれてお話もできるので、また機会があれば是非彼の活動をご披露いただければと思う。

また、スポーツ庁は学校施設を有効活用しようということで今年度ガイドブックの作成している。みずほ小学校を借りて学校開放の中でも個人開放ということで、ふらっと来た人がすぐ使えて登録も何も要らない、という状況で月に2回土曜日に開放をやっているが、全国で調べてもそういう個人開放をしている所はないということである。スポーツ庁のガイドラインを作っている所から取材を受けたので、おそらくそのガイドブックには平塚市の事例が載ると思う。大学が絡みながらやっているの、どう広めるかというのが非常に大きな課題だが、運動をあまりしない人達は登録してまでとか、どこかのクラブにまで入ってではないので、そういった人達をどうやってサポートできるのかが非常に大きな課題なので、平塚市の事例として出ると思う。

【会長】

目的のあるスポーツをやりに来るのか。

【委員】

バドミントン、卓球、ポッチャ、バスケットを集まった人同士でやっている。今日はバドミントンの人が多いから、バドミントンをやるなどである。取材に来た方も一つの体育館の中でこんなに色々なスポーツをしている光景は見たことがないだろう。来た人がやりたいものをできるように、卓球をやっていた人がそのうちバドミントンをやったり、ポッチャをやったり、色々できるような感じである。

【会長】

港スポーツクラブは会員制でやっているのが、これは会員制ではないということか。

【委員】

そうであり、そこがポイントである。会員制ではないから、今日は少し時間があるから近所の小学校の体育館で体を動かそうかなという人達が来られるような場を作りたいということで5年間くらいやっている。

【会長】

周知はどのようにしているか。

【委員】

みずほ小学校の子どもたちを中心にパンフレットを配ったりしている。小学校区内で歩いていける範囲で活動を色々なところに広げていけたら学校施設がもっと有効活用できるのではないかな。

【会長】

本日の議題は以上となる。次回もよろしく願いいたしたい。

事務局より、次回の日程は令和2年3月を予定している旨を説明。

4 閉会